



学習のねらい

- (1) 米づくりが始まる前、海沿いに暮らす人々がどのような生活をしていたのかを考えさせる。
- (2) 各地に移動していた人々の生活や社会の様子について想像させる。

解説

(1) 田井遺跡について

縄文時代は今から約1万年前～2,500年前と考えられており、田井遺跡は今から約5,000年前の遺跡です。約900平方メートルの調査区から、縄文時代前期末～中期(今から約5,000～4,000年前)にかけての土器やけつ状耳飾りの他、石斧や石皿、石錘などの石器が見つかりました。この時代の田井で生活していた人々は海へ漁に出て魚を獲ったり、木の実を採集したりして生活していたのでしょう。

(2) たくさんの土器や石器

田井遺跡では徳島県外の地域で作られたとみられる土器が出土しています。石器は、田井周辺に豊富にある石やこの地から離れた土地で採れる石で作られた石器が、混ざり合っで見つかりました。石斧(写真4)などの材料になる砂岩などは田井周辺に豊富にあります。石鏃(石製のやり)や石匙(写真5)などの材料となるサヌカイトや頁岩はこの辺りにはありません。また、けつ状耳飾り(パネル写真1)は、近辺にはない蛇紋岩という石が使われています。けつ状耳飾りとは、古代のアクセサリーで、主に東日本の遺跡から多く発見されており、徳島県では石井城の内遺跡でも発掘されています。「けつ」という古代中国の宝物に形が似ていることからけつ状耳飾りと呼ばれています。

このことから、当時の田井に住んでいた人々は、海に近い田井の地の利を活かし、陸地だけでなく、船を使って海や川などの水上を移動して、いろいろな地域の人々と交流していたと考えられます。



写真4 石斧

木を切りたおすために使われた石のおの



写真5 石匙

採集した木の実の殻むきなどの加工に使われたものと見られる石の道具



写真6 石皿

採集した木の実の加工に使われた石の道具



写真7 石錘

魚を捕まえるための網や釣り糸につけた石のおもり

図1 田井遺跡の位置図



図2 田井遺跡の縄文土器と同じ種類の土器が見つかった主な場所

